

現状

全国学力・学習状況調査において、
全国平均を下回る現状が続いている
※右の数値は全国を100として見た場合の
福島県の数値

	小学校			中学校			
	R4	R5	R6		R4	R5	R6
国語	98	100	97	国語	99	99	98
算数	97	98	95	数学	91	90	91

※福島県総合教育計画指標目標値
国語102以上 算数・数学100以上

課題

【R6全国学力・学習状況調査 質問調査の結果より（数値は全国平均との差）】

I 「分かる」実感を伴う授業

■算数（数学）の授業の内容がよく分かる 小学校 -0.8 中学校 -2.7

II ICT機器の効果的な活用

■ICT機器等の使用回数（週3回以上） 小学校 -14.8 中学校 -8.6

III 校内における組織的対応

■学力向上に向けた組織的な取組をしている 小学校 -2.6 中学校 -6.0

内容

授業を中心に据えた「学びの変革」の実現

①伴走支援訪問事業 ⇒ 課題Iに対応

- 学校支援型 全国学調の結果を基に学校を選定し、直接的・継続的な支援訪問を実施
- 教育委員会支援型 専門教科の指導主事がない町村教委からの要請を受け、直接的な支援訪問を実施

②キビタンシート活用事業 ⇒ 課題IIに対応

- 小学1年～中学3年の国語、算数・数学、英語（中学のみ）の全単元のC B T問題を作成
- 学習履歴を活用することにより、個々の学習状況の把握及び課題克服に向けた支援

③新「授業スタンダード」活用促進事業 ⇒ 課題I・II・IIIに対応

- 「学びの変革」に向けた授業改善の拠り所となるリーフレットを作成し、県内すべての教員に周知徹底
- 新「授業スタンダード」の活用方法等について、具体的に協議する場を設けることによる活用促進

④学力向上マネジメント等支援事業 ⇒ 課題IIIに対応

- カリキュラム・マネジメントに係る校長悉皆研修の実施による、学力向上に向けた組織的対応の推進
- 外部有識者を招聘し、専門的な知見を得ながら、学校管理職のマネジメント力を強化

【令和6年度 授業改善グランドデザイン】より

授業改善3つのポイント



「感じて動」き出す「学びへ」

1 学び出す

「確かめたい」「考えたい」「やってみたい」

すべての子どもが課題解決の見通しをもったり、解決方法を選択したりして、自ら動き出そうとする授業にします。

2 学び合う

「話したい」「聞きたい」「話し合いたい」

すべての子どもが友だちの話に耳を傾け、自分の考えを確かにしたり、新たにしたり、磨き上げたりする授業にします。

3 学びとる

「分かった」「できた」「がんばった」

すべての子どもが今日の授業で「自分は何がわかり、何ができるようになったのか」を実感できる授業にします。

教師が「話す」授業から、
教師が「みる」「きく」「つなぐ」授業へ

～ 授業改善チェックリスト ～

＜すべての子どもが「学び出す」授業にするために＞

- すべての子どもに結果の見通しをもたせたり、解決の見通しをもたせたりしている。
- すべての子どもの多様な見方や考え方を引き出すことができる学習課題を設定している。
- 教材との出合わせ方を工夫し、「考えたい」「やってみたい」という思いを引き出すようにしている。

＜すべての子どもが「学び合う」授業にするために＞

- 友だちの考えを聞きたい、自分の考えを話したいと思う発問を設定している。
- すべての子どもが、互いの考えを比較、検討、吟味することができる時間を確保している。
- 子どもと子どもの発言をつないで、集団で学び合える授業づくりをしている。
- 分からないことを「分からない」と言える安全・安心に学べる学級になっている。
- 教師が話すすぎることなく、子どもが話す機会を多く確保している。

＜すべての子どもが「学びとる」授業にするために＞

- 授業で何がわかり、どのようなことができるようになったのか、自分の言葉で学んだことを振り返らせている。
- 学んだことを活用したり、次の学びにつなげようと考えたりする場面を位置付けている。
- 個に応じた振り返りの視点を与え、自分の成長や変容に気付くことができるようにしている。

- 子どもの学びから自分の指導を振り返っている。